



読字英原田 親

No. 589
2009/11/15

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0045 東京都千代田区
西船場1-1-1 東洋大学ビル3階

日中友好協会
岡山支部
〒700-8256
岡山市東区3-8-30 511
TEL:0861272-3010
郵便番号11所
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒712-8911
倉敷市遊島中央1-8-4
(宮地方)
TEL/FAX:0860446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.web.infoseek.co.jp>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



わかりやすい中国問題講座の開催近づぐ 11月15日 倉敷・水島で

日中友好協会倉敷支部では、次のように第一回中国問題文化講座を開くことになりました。

倉敷支部の今年の総会で会員から中国への疑問やもつと中国のことを知りたい」という意見が出されました。

役員会ではその声にこたえて今後、年4回程度の文化講座を開くことになったものです。

第一回は、中国はどこへ向か

うのか」と題して中国の経済の現状などをわかりやすく解説し講演します。講師は、倉敷支部の栗本泰治理事長(倉敷医療生協名誉理事長)が担当します。また、日中友好の旅を終えて」と題して、大本芳子理事(倉敷市議)が先般の南京・鎮江・上海の旅の特別報告をします。多数ご参加ください。

講演では、中国の経済の現状、中国革命の意義、市場経

済を通じての社会主義への道などとともに、中国が発展したら日本の脅威にならないか」とか、中国の貧富や地域間の格差問題などについて、参加者との意見交換なども行う予定です。また、この文化講座は、倉敷医療生協が後援することになりました。

記

わかりやすい中国問題文化講座(第一回)

日時 11月15日(日)

午後1時半から3時半まで

場所 倉敷市水島

倉敷医療生協会館3階講堂

(エレベーターあり)



胡同遊覧 左 坪井さんとお孫さん

北京へ(8)

坪井あき子

中国は一応、人民共和国なのだ。皇帝の時代が終わって100年もたっているのだ。

しかるに、ラストエンペラーの親戚の愛新覺羅ナントカという人が尊重される風潮が根強く残っているのだろうか。

まあ、このおじいさんは、言葉を発せず、黙々と筆を動かしているだけで「権勢」とか「権威」には程遠い雰囲気の人だったし、時おり自分が持ってきた水筒を机

の下から出してお茶を飲んでい

る素朴な人だったが。書かれた字も私の目には「質相」で、頤和園のコンクリートの路上に水筆ですらすら書いていたおじいさんの字のほうによっぽど心を打つ品格のある字だった。

この店内には、筆、硯、墨なども陳列してあったが、こちらに心を示す人はひとりもいなかった。

5名ほどが軸をかつて、四角い紙の筒(四角だから筒ではない)が渡されて、やっとこの場から解放された。

第81回日中文化講座

『岡山での日々、佐藤をとみの恋愛』郭沫若のロマン主義文学』によせられた感想

◎ とても新しい発見を聞かせていただき勉強になりました。埋もれていた事実を掘り起こすことの重要性を感じました。(女)

◎ 岡山市で生活したことのある、岡山とも関係の深い郭沫若の戦前の生活を知りえた。

また戦争により夫婦関係がさかれたことに深い感慨を覚えた。日中友好協会岡山支部の文化講演会、引き続き開催してほしい。(男)

◎ 今で言う国際結婚だったと思うが、妻と5人の子を残して母国へ帰った郭氏は夫、父として少し責任感がなかったといえないか? そして中国で新しい家庭を持っていたというのはい夫多妻の考え方が残っていたのか?(女)

◎ 佐藤を富さんの苦労されたことを思つて、日本女性の強さを知らされました。今後ともこのような講演会、興味あるものに多く参加したいと思ひます。

◎ 大変エネルギーをいただきました。(女)

◎ 佐藤富子さんの苦労は戦争の影響が大きいと思つた。郭沫若は佐藤さんに苦労をさせながら、無断で3度目の結婚をするとは許し難い。彼はのちに政府の要人になったが、体制に対して要領がよかつたと聞いている。人間性に問題があるのではないか、講師の先生の一生懸命さがよかつた。(男)

◎ とても心温まる講義でした。姜波先生のお人柄がとてもよかつたと思ひます。(女)

◎ 岡山の人に光をあてる、しかも岡山の立場も意識して伝えられた話が面白かつた。(男)

◎ 姜波さんが日本人をよく理解して良いことを取り上げて(佐藤さんが能力のある人物だったからでもあるが)、郭さんと同じように愛情を持って研究してくれてうれいす。日中が比較的またはそれ以上に安定した関係にあるなかでさえ、このような催しがあるのかと感じました。予備知識がなくてもわかるように話してくださいってありがとう。(女)

◎ 郭沫若先生のこと、そして妻の富子さんが素晴らしい女性であつたことに感動しました。姜波先生素晴らしい講演でした。またお聞きしたいと思ひます。

◎ 姜波さんが日本人をよく理解して良いことを取り上げて(佐藤さんが能力のある人物だったからでもあるが)、郭さんと同じように愛情を持って研究してくれてうれいす。日中が比較的またはそれ以上に安定した関係にあるなかでさえ、このような催しがあるのかと感じました。予備知識がなくてもわかるように話してくださいってありがとう。(女)

三江学院大学の記事で

11月5日号の新聞を、学部長と夏秋さんに渡しました。

学部長は部内の会議の場で、この新聞の紹介をし、名誉なこと」と言っていました。全国版ではなく、地方版だとわざわざ注釈するのはやめました。

翻訳の日本語ですが、夏秋さんは幾つか気になるところがあるようです。それをお伝えします。

3段、後ろから11行目

医療を受けにくいなど↓中国の医学水準は高度なレベルになつている。しかし、費用が高い。

3段、後ろから3行目

忘れることができないが、許すことができず「これは逆。許すことはできるが、けつして忘れることはできない」重点は、忘れることはできないにある。

4段、後ろから10行目

内容のある思想性↓(学生)の発言に思想性があること最終行

専門学科の向上のため↓日本語の能力を高める(貴重な機会を・・・)

ということでした。充分彼女の意が伝わっていないかも知れませんが、ご容赦ください。

曾田和子

兵庫の中国帰国者との交流会

岡山の中国帰国者が熱烈歓迎し親睦を深める

10月18日(日)に兵庫県から中国帰国者の一行を迎えて、交流会を開いた。

秋晴の好天気の下、兵庫県からの75人を乗せた2台のバスは高島公民館へ到着。岡山の帰国者と日本語教室の講師ら20人が入口まで出迎え歓迎した。

この交流会は兵庫県の中国 残留日本人孤児」を支援する会等が主催した親睦旅行で岡山・瀬戸大橋を訪れるのを機に、日中友好協会岡山支部が橋渡しして実現した。

会は日中友好協会岡山支部および日本語教室岡山の事務局長小林さんの司会進行で始まり、中国帰国者を代表して岡山の高杉久治さんが歓迎のあいさつを、兵庫からは宮島満子さんが挨拶をした。

二人の話は日本への帰国後の苦しさや国賠訴訟で得た一定の成果について(こもこも)も話ったのが印象的であった。支援する兵庫の会上田さんが兵庫での支援活動の様子を紹介した。岡山からは日本語教室の井上が教室での講師と生徒との立場を超えた日々の交流を



左側が兵庫 中央に立っている人は蔡さん 右側は岡山

報告した。

昼食をはさんで、岡山に留学している蔡さんが内モンゴルに伝わる古謡を披露したが、よく知られた歌らしく、口ずさみながら聞いている人たちもたくさんいた。兵庫からも歌の披露があった後、全員で唱歌「故郷」を合唱してお開きとなった。

なお、会場設営から昼食の手配などこの交流会の成功に尽力された高島公民館の吉田さん、通訳をしてくれた留学生の馬小菲さんには大変お世話になった。 謝辞。

井上進夫

『おひとりさまの老後』を読み 老後の社会保障についての学習会

10月31日(土)午後2時〜4時まで、岡西公民館にて、開催しました。当日4名の参加者と講師の米田信敏さんで、熱心に討議がなされました。

まず、最初に米田さんが「格差と貧困」を高齢者の視点から」というテーマでまとめてくださいました。

日本の年金制度の問題点としては、低すぎる給付額、国民年金だけでは生活保護より低い。高すぎる医療費負担。介護保険で

は、待機の問題、高い入所費用など、どれだけ日本の社会が抱えている問題が大変かを、あらためて思い知りしました。

でも米田さんは、そういう状況の中でも大丈夫です、何とかありません。とおっしゃいます。それは、その人が回りの人に、助けてほしいと訴えれば、誰も放っておかない。そういう人となりの繋がりがこそが一番大事なことでとおっしゃっていました。

あつという間に時間がたつて、まだ、お話がすべて終わったわけではなく、続きを二回目として来年1月23日(土)に行なう事を決めました。

憲法9条の会が、25条の生存権を学ぶのも、とても大切なことです。次回は、皆さんもいかがですか。 真田

高島の日本語教室 水餃子作りで交流

高島公民館の日本語教室が始まって3ヶ月。勉強以外にも少し交流しようと、10月13日、帰国者の方とボランティア23名が参加して水餃子作りをしました。今日の先生は帰国者のメンバー。

白菜やニラをみんなでみじん切りにして具を作ります。中には二刀流でトントンと見事な手さばきの男性も。粉から手作りした皮でこの具を包みますが、これがまた一苦労。先生から包む時は、こ

こを合わせて！はい、1, 2, 3」とコツを教えてもらい、できると「上手にできたね」とほめられてみな満面の笑顔です。

同じ餃子でも中国では地方によつて作り方がぜんぜん違うそう、今日は調味料たっぷりです。ジュシーな肉汁が出て、ゴマの風味がなんともいえない味わいに思わず「おいしー！」の声。水餃子をいただきながら、二胡の演奏に耳傾け、歌声あり、出会いあり、そしておいしく楽しい会となりました。



水餃子作りを指導する工藤親子

成田宣子

小林軍治の フランス滞在記 5

一路地中海へー 高速道路を走る！

八月一日(土)、午前三時三〇分にリヨン6区の家を出て、高速道路A7号線を一路地中海沿岸のCogolin(Cogolin)に向かつて出発しました。

この日は、バカンスの最初の日、しかも土曜日とあって、南フランス沿岸のリゾート地を目指して、日本の盆・正月と同様、民族大移動といった感じで、道路の大渋滞が予想され、早朝の出発となりました。高速道路の制限速度は、時速一三〇kmであるが、なかに一五〇km位のスピードで走

る車もあり、みんな飛ばしていました。車は、家族連れが多く、自転車を二・三台くくり付けたものや、キャンピングカーもあり、一見してバカンスのためとわかります。

また、高速道路は、片側四車線で右端の少し狭い車線は事故にあつた車を留めたり、救急車など緊急用で、一般車両は通行できない」と娘が説明してくれました。

たしかに渋滞中でも側道に出るとき以外は、車は通っていませんでした。

私達は、途中で二・三回渋滞に巻き込まれましたが、トイレ休憩やドライブインで朝食を取ったりして、十二時頃に借りているアパートの近くに到着しました。

走行距離約四二〇kmで、婿のミカエル君が一人で運転しました。ご苦労様でした。

走行中の車窓からは、のどかな田園風景が広がり、レンガ色の農家が点在し、どこまでも平野が続いていました。あらためてフランスは、農業国であると実感しました。

(なお、フランスの交通事情については、後でくわしく紹介します。)

次回の新聞送付作業は11月24日(火)午後1時半〜民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

葉吹林内井垣 和 稲貝小竹坪三